

●指導の実際

◇導入で、児童が考える自由を出させ、「それは、本当の自由と言えるだろうか」と投げかけることで疑問を抱かせる。(課題意識)

◇6日目の朝、主人公は、登頂すべきか、引き返すべきか、自分の考えとそのわけをワークシートに書く。(考える場)

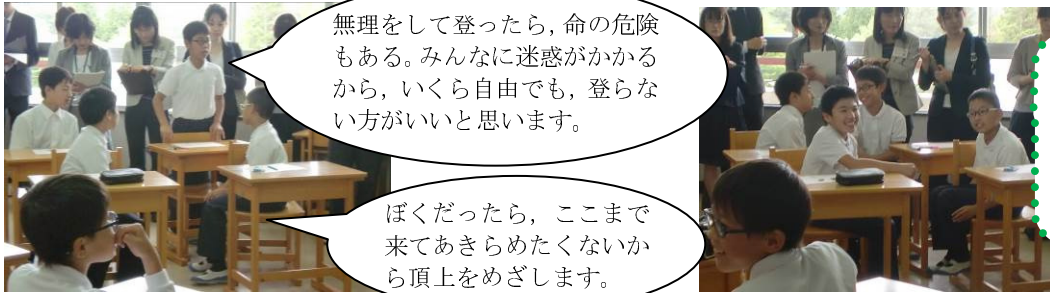
登るか、引き返すか決めるのは、自分の自由であることをおさえたうえで、どうすべきかとそのわけを考えさせる。そして、ネームプレートに貼らせることで、自分の立場を明らかにさせた。



児童のワークシート

頂上をめざす
 (理由) かく頂上から早くそのところまで行、たんだから登らなはいとほらしくてきないし、自分の力も試せないから、引き返す
 引き返す
 無理行くときに仲間が注意や心配をしてくれなれしもし何かあって一週間では帰れなくなったら、困らせてしまふかもしれないから、

◇自分の考えを出し合い、主人公はどうすべきか話し合う。(議論する場・協働学習の場)



自由に決められる状況なのに、なぜ諦めようとしているのかをペアで話し合わせ、学習課題の「本当の自由とは」について考えさせる。

◇「本当の自由」についてまとめ、自分の生活を振り返る。

◇板書

児童の振り返り

ぼくは、家で親の言うことを聞かず自分の好きなように自由にしてきたけど、今日の学習でそれは本当の自由じゃないと分かった。
 ゲームをする時間が終わってそのままいたから時間を守り、きちり宿題をしてゲームをする。



自分のとらえていた自由と本当の自由のちがいに気づき、自分の生活を振り返って改めるべき点を見つけさせた。

◇成果と課題

- 「本当の自由とは」という学習課題を明確にし、「考える場」と「議論する場」を設定した問題解決的な流れにすることで、自由は、自律や責任を伴うという新たな価値に気づくことができた。
- 協働学習の場では、児童の発言が中心になるように、教師は、聞き役や軌道修正する役になり、児童が議論する中で、より深い価値を学び合う授業をつくっていく必要がある。